

シンポジウム
開催のご案内

第32回 ニッセイ財団シンポジウム

「高齢社会を共に生きる」

みんなが地域づくりの主役
—農福連携による福祉でまちづくり—

開催日時 2018年12月1日(土)
12時30分～16時40分

会場 大阪国際交流センター
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

後援：厚生労働省、内閣府、大阪府、大阪市
社会福祉法人全国社会福祉協議会
社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
一般社団法人日本認知症ケア学会
公益社団法人認知症の人と家族の会
協賛：日本生命保険相互会社

主催 公益財団法人 日本生命財団

ごあいさつ

日本生命財団は、1979年に日本生命の創業90周年を記念して設立された助成財団です。設立以来、児童・少年の健全育成、環境問題、高齢社会の3分野を主なテーマとして、助成事業を続けて参りました。

この中で、高齢社会助成は長年にわたり、「共に生きる地域コミュニティづくり」をテーマに活動・研究への助成を続けて、高齢者が住み慣れた地域社会で人間関係を維持し、社会参加をしながら、生きがいを持って元気に暮らし続けられる社会の実現に向けた一助になることを目指しております。

そしてこの助成成果を社会に還元することを目的に1987年より統一テーマとして「高齢社会を共に生きる」を掲げ、シンポジウムを開催いたしております。

32回となる本年のシンポジウムのサブテーマは「みんなが地域づくりの主役—農福連携による福祉でまちづくり—」です。地域の人々が主体となり生きいきと暮らすことができるケアリングコミュニティづくりに関するプログラムで開催いたします。



当シンポジウムを通して、高齢者、認知症の人とその家族も含めて全ての人が地域で生きいきと暮らせる地域共生社会の実現へ向けての対策が得られるものと期待いたします。

当シンポジウムは認知症ケア専門士単位認定：3単位となります。

参加申込みのご案内

申込方法 同封はがきまたは官製はがきに、郵便番号・住所(通信先)・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢・性別・職業をご記入のうえ、

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7
日本生命今橋ビル4階
ニッセイ財団シンポジウム事務局

へお申込みください。

お問い合わせ先 TEL 06-6204-4013

申込締切日 11月23日(金) 当日消印有効

定員 1200名 先着順に参加証をお送りします。

参加費 無 料

※同封のはがきに2名様までご記入できます。
3名様以上お申込の場合は、郵便番号・住所(通信先)・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢・性別・職業を官製はがきにご記入し、上記宛に郵送ください。
※シンポジウムの当日は必ず参加証をご持参ください。

会場最寄駅のご案内

近 鉄
「大阪上本町」徒歩5分

地下鉄
谷町線・千日前線
「谷町九丁目」
徒歩10分
谷町線
「四天王寺前夕陽ヶ丘」
徒歩10分

市バス
「上本町八丁目」徒歩1分



公益財団法人 日本生命財団

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7
日本生命今橋ビル4階

TEL 06-6204-4013 FAX 06-6204-0120
http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp

開 会 挨拶 公益財団法人 日本生命財団理事長
12時30分～12時40分 甲斐 啓史

基 調 講 演 12時40分～13時30分

横石 知二氏 (株式会社いろどり代表取締役)

『一枚の葉っぱから生まれた幸せ～もうひと花咲かそ～』

人に喜んでもらえる仕事ができれば、自分の幸せへとつながる。「いつもありがとう」という言葉を彩(いろどり)のおばあちゃん達から声かけしてくれる。高齢社会になっても、仕事があつて楽しいし何よりも年金だけでは、やっていけないので、お小遣いがあると生活面でも助かるから・・・。彩の仕事のように、人に喜んでもらえることになれば、不思議と自分も幸せ感が増してくる。なぜなら役に立っているという充実感が出てくるからだ。

しかし世の中全体ではどうだろうか・・・。その逆が主流になってきてしまつて、自分が何のために仕事をしているのかと考えてしまう人が急増している。それだけ余裕がない現状だ。彩のおばあちゃん達の口癖は、「世界中探したつてこんな楽しい仕事ないですよ」。まさに産業福祉がこれからの高齢社会に必要だということを教えてくれている。

13:30～13:40休憩

実 践 報 告 13時40分～15時05分

地域福祉チャレンジ活動助成成果報告

『住民総出で耕し育てる農場による地域コミュニティ再生事業』

川村 美津子氏 (滋賀県長浜市・認定NPO法人つとめ理事長)

高齢者、障がい者、また育児期の母親や引きこもりの人などの就労困難な人たちと共に、3ヘクタールの耕作放棄地を開墾して蓮を育てている。蓮の栽培事業を収益化し、参加者へ報酬を支払い、継続への意思につなげつつ、多世代の交流や「誰かの力になる」という実感を通じ、農場そのものが参加者自身で造り上げる「地域の居場所」として機能し続けることを目標に活動を展開している。

『つながりと社会参加を意識した健康なまちづくり』

市川 伊知郎氏 (長野県佐久市・NPO法人うすだ美図理事長)

少子高齢化が進む地域社会では、つながりや社会参加が少なくなっている人が増えている。私たちは行政・民生委員や自治会と実態調査を実施し、その結果を関係者で共有した。その後、「うすだ健康館」を拠点に、小さなコミュニティを地域に複数つくっていくことで、ゆるやかなつながりと小さな社会参加が広がる取り組みを展開している。

『高齢者の生活支援・就労支援等多機能サービスシステムの構築』

柏木 克之氏

(和歌山県和歌山市・生協法人和歌山高齢者生活協同組合新規事業部長)

障害者就労継続支援B型事業所の制度を活かして、高齢者の多い地域に共生型サービス事業を推進する。事業所は障害者等の就労支援を70歳以上の高齢者が生きがい就労として係り、地域の高齢者の買物・病院付添支援やよろず相談、寄合所としての役割を担っている。農家とは6次産業による高齢者の就労開拓に挑戦している。

『空家と休耕田を再利用した百寿者のコミュニティサロンづくり』

徳 範文氏

(鹿児島県伊仙町・一般社団法人徳之島百寿者創生会理事長)

「今日の誇らしや、いつもより勝り、いつも今日のこと、あらちたほれ」と歌われる。祝いや歌あそびには必ずこの歌から始まる。高齢者の「居場所」と「楽しい活動づくり」サロンでの活動は、ただ集まるということではなく島の産業であるサトウキビの苗づくりなど“副業”的な仕事を行っている。さらには、学校帰りの子どもたちの居場所にしていきたいという発想が湧いてきた。まさに地域づくりの第一歩を踏み出している。

15:05～15:20休憩

総 合 討 論 15時20分～16時40分

『みんなが地域づくりの主角』

—農福連携による福祉でまちづくり—

コーディネーター 上野谷 加代子氏 (同志社大学 社会学部 教授)

シンポジスト 川村 美津子氏 市川 伊知郎氏 柏木 克之氏 徳 範文氏
大橋 謙策氏 (公益財団法人テクノエイド協会理事長)
宮城 孝氏 (法政大学現代福祉学部教授)
野口 典子氏 (中京大学現代社会学部教授)